

## 平成24年度第2回（第8期第6回）浦安市廃棄物減量等推進審議会（議事要旨）

1 開催日時 平成24年10月18日（水）午後1時30分～午後4時10分

2 開催場所 集合事務所3階301会議室

### 3 出席者

（委員）

下田会長、畑山副会長、吉本委員、高橋委員、木村委員、大川委員、内田委員、  
木元委員、佐藤委員、大谷委員、米山委員、荒井委員、坪井委員

（事務局）

長峰都市環境部長、大塚都市環境部次長、本田クリーンセンター長、熱海ごみ  
ゼロ課長、渋谷クリーン推進係長、高橋主任主事、細川主任主事、瀬能尾主事

### 4 議 題

- （1）アンケート結果について
- （2）数値目標の設定について
- （3）今後の取り組みの骨子について

### 5 議事の概要

- （1）事務局よりそれぞれの項目について説明。各委員より意見、要望を伺う。
- （2）事務局より今後のスケジュール等について説明。

## 7 会議経過

会長が議事を進行した。

事務局より、「アンケート結果について」説明を行い、委員による質疑を行った。

主な質疑内容は次のとおり。

- ・委員 地域別にアンケートの回答に傾向があったのか。
- ・事務局 クロス集計を行っており、地域別に傾向を把握することは可能である。必要な方には提供する。
- ・委員 回収率の目標値を満足しているのか。
- ・事務局 回収率は6割を目標としていた。高めの目標であるが、どのアンケートもほぼこの目標を達成している。
- ・会長 完成版では遅れて回答があったものも反映するので、多少回答率が向上する可能性がある。
- ・委員 アンケートの結果を受けて今後どうするのか。その方向性は示されているのか。
- ・事務局 アンケート結果に基づき、取り組み等を定めていく。本日その骨子案を示す。
- ・委員 中学生の回答であまり関心がないとする割合が高いようだ。啓発を推進すべきである。  
リフューズとリサイクルは相対するものではない。優先順位を決める必要があるのか。  
有料化する場合、その分税金がやわらぐといった措置があるのか。

- ・事務局 中学生については、意識を高めるため、学校へおもむき働きかけることは可能であるので、前向きに検討する。なお、50%は関心があるとしており、決して低い値ではない。

国では3Rを進めているが本市はそれにリフューズを加えて4Rを推進する方針である。4Rの中でもリフューズを優先して進めるとしており、そのためにこうした設問を設け、市民の意識を調査した。

有料化について、徴収した金額は市全体の財源とはなるが、税額が緩和される等の措置はない。
- ・会長 有料化は減量化の手段である。ごみが減れば経費が減り、経費削減分を別の事業の財源として使える。
- ・委員 最近、バラ売りしている店もあるが、トレーに入れて販売しているケースが多い。どのような販売方法がお店にとっても顧客にとっても望ましいのか不明確である。ごみを出さない持ち込まない工夫が必要である。

エコショップはどのように知ることができるのか。チラシに書いてあるのか。
- ・事務局 店頭にのぼりを設置したり、入口のドアの所にシールを貼ったりしている。
- ・委員 エコショップがどのようなものか知らない市民も多い。市の周知が必要だが、エコショップの活動が見えるようにすべき。
- ・事務局 4Rの取り組みを進める中でエコショップは重要な役割を持っている。

エコショップを市が認定しているので、市が積極的にエコショップのPRを推進する。
- ・会長 リフューズを推進するには、エコショップの存在は大きい。

- ・委員 リフューズを推進するには、事業者側が先に簡易包装に徹すると決めておき、必要な人だけがレジ袋等を求めるような仕組みにしておくとうよい。消費者にリフューズを求めるのではなく、事業者側が簡易包装しかしない姿勢を示すことが望ましい。
- ・事務局 個々のニーズに配慮しつつ、事業者側、消費者側がリフューズ意思表示をしやすい仕組みを市全体に広げていきたい。

事務局より「数値目標の設定について」説明を行い、委員による質疑を行った。主な質疑内容は次のとおり。

- ・委員 自治会の資源回収の際に、子供たちが協力しており、小さいころから子供たちに対する教育が重要である。
- ・委員 資源化率についてわかりづらい。説明を加えるべきではないか。
- ・事務局 算出方法の説明を書き添えることとする。
- ・会長 他に意見はないか。既計画よりも緩和された目標もあるが、諸事情を踏まえた現実的な目標となっている。これでよろしいか。

(全員了解)

事務局より「今後の取り組みの骨子について」説明を行い、委員による質疑を行った。

主な質疑内容は次のとおり。

- ・委員 プラスチック類についてはサーマルリサイクル（ごみ発電）する方針を示しているが、分別してリサイクルする方法も残すべきではないか。

- ・事務局 容器包装プラスチック類の分別については、方向性を再検討し、次回に示したい。
- ・委員 事業系ごみ減量において、マニュアル作成するとあるがどのようなものか。
- ・事務局 ごみ出しのルール、分別方法、資源化方法、資源の持ち出し先等、ごみ減量化、資源化を進めるための方法を示したものとなる。
- ・委員 多量排出事業者の対象を広げることはよいことだ。何を基準に対象者を定めるのか。
- ・事務局 床面積の条件を引き下げるなどが考えられる。今後の検討課題である。市規則で規定していく。
- ・委員 アンケートでは8割の人がマイバッグを利用しているとしているが、エコショップでのレジ袋辞退率でみると、実態は3割程度である。このギャップをどう埋めるのか掘り起こし部分が重要だ。  
目標数値を達成しようとする場合、事業者に強制的に指導していくのか。
- ・事務局 6月に行った環境フェアでマイバッグ配布者にアンケートを行う予定。その集計結果も踏まえて対処する。マイバッグの利用促進を図るため、引き続き広報等を活用したPR、啓発活動を推進する。  
目標数値を達成するために事業者への指導を強化していく。
- ・委員 思い切った取り組みが見られない。再考の必要がある。
- ・事務局 ビーナス計画も兼ねて細かい取り組みを進めてきた自負があり、効果もあった。骨子案はこれまでの取り組みをさらに推進するものである。各主体との意見調整を図りながら実現性も踏まえて再考する。

- ・会 長 次回の審議会でも引き続き協議となるので、取り組みの骨子について内容を見ていただき、意見、要望等をお願いしたい。
  
- ・事務局 習志野市、大阪府此花区、佐世保市及び本市の事業所ごみ排出量の報告を行った。大型テーマパークを抱える自治体では事業所当たりの排出量が似通った値になることについて確認した。

このほか、委員より、いわき市のプラスチック類分別収集の事例報告及び木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市との会合に出席した際に、アウトレットが地域にできた関係でごみ量が増加しており、こうした企業誘致の影響についての報告があった。

- ・会 長 今後もまた意見を伺いながら、基本計画の取り組みを練っていきたい。  
(数値目標、取り組みの骨子案については概ね委員の了解を得た。)

事務局より、「今後のスケジュールについて」(11月中旬以降の実施を考えている)説明を行い、終了となった。